

## 海南島 日本語ボランティア 体験記

私は、2週間チョンハイ市で日本語ボランティアとして滞在しました。私の中国語のスキルは、大学で少しやっていて文法を知っている程度で、英語も特別出来るわけでもなかったのですが、行くまではとても不安でした。しかし、何名かの先生も学校の寮で暮らしているのですが、買い物や散策に連れて行ってくれたり、日常的に親密にコミュニケーションをとってくれたので、慣れない中国での生活もホームシックになることなく、楽しく充実した毎日を過ごすことができました。

活動は日本語を教えること。月曜日から金曜日の19時～21時まで授業があります。学生は15名程度でした。1人日本語が上手な青年がいましたが、多くはまだ日本語習い始めて3週間という学生ばかりです。私は2週間で「助詞」「形容詞」「形容動詞」を教えました。授業の合間に日本に興味を持ってもらうために富士山や日本の都市など、日本の話をよくしていました。もちろん、ほぼ中国語で教え伝えなくてはいけないので、当初準備には苦労しましたが、その環境の中でなんとか自分の言いたいことを伝えたい、分かってもらいたいと、私自身も一生懸命中国語の語法や単語を調べては授業で使うという繰り返りで、とても勉強になりました。

現地での生活サイクルは、午前9時からだいたい2時間、王先生に中国語を教わっていました。その内容は主に授業の準備で、日本文を中国語訳したり、新出単語の中国語訳の発音練習をしたりしました。また、私は途中から中国語で日記を書くように言われていたので、その内容を添削してもらったりもしました。午後は、辞書を引いたり発音練習したり具体的に授業を組み立てる時間に使ったり、時間に余裕があるときは昼食を食べに行き、そのまま市内を散歩したり、買い物したりしました。そして、授業前18時ごろ夜ご飯を食べに行き、19時から21時まで授業をします。食事は多くの店が一品5～8元(日本円で100円前後)で安いです。私は授業後、毎回多くの学生が住む寮まで散歩を兼ね、片道約40分一緒に歩いていました。私にとってその時間は、現地の学生とゆっくり会話できるので有意義な時間でした。ゆっくり話しながら歩き、その後話し込むこともあり、自分の寮に戻ってくるのが日付を越えることも多々ありました。しかし、チョンハイはとても治安がいいので、夜一人で歩いても危険を感じるということもなく、泊っていた寮も大通り沿いなので心配ありませんでした。寮に帰ると、シャワーを浴び、日記を書いて寝るといった感じです。

土日は授業もないので、一人で長距離バスに乗り、海口市や三亜市に行きました。不安ですが、良い経験です。海口では現地の大学で日本語を教えている日本人の先生にお会いし、彼の学生と博物館や買い物に行ったり、先生の家で料理をごちそうになったり一日交流しました。三亜では、初日はゆっくり海辺を散策したり夜景を楽しんだりし、翌日は中国語を学びにチョンハイの学校に来た日本人の方と合流し、現地の旅行会社のツアーに参加して、観光地を巡ってきました。最終日には学生たちの大学のクラス会に招かれ、ダンスや歌を見させてもらいました。私も日本の歌を歌いましたが。大学生の雰囲気は日本と一緒にです。

私は今回、勇気を出してこのプログラムに参加して、心の底から良かったと思っています。それは中国を直に感じ、中国語の学欲が湧くのはもちろん、多くの人と接するなかで、世界や人間のことなど、本当に多くのことを感じ取って帰国することができたからです。滞在中支えてくださった先生方、学生のみならず、本当にありがとうございました。



## 「海南島での日本語ボランティア」

二週間という短い期間でしたが、私はここ海南島で多くの子とを学び、自分自身の成長につながったと思います。

私が「日本語ボランティア」に参加しようと思ったきっかけは、日本にいる中国人との交流です。彼らは私に多くの中国語を教えてくださいました。習いたての私に、基本的な表現から流行語まで一生懸命教えてくださいました。現在中国語を学んで二年半、会話がスムーズにできるようになったのは彼らのおかげです。

私も同様に、少しでも中国人学生の役に立ちたいと思い日本語ボランティアをすることに決めました。海南島について、翌日早速「海南软件职业技术学院」に見学に行きました。学生たちの寮を見て、6~8人くらいで1つの狭い部屋で共同生活送っていることを知りました。また、バスの乗り方や外食の安さにも驚きました。ここ海南島は日本とは全く別世界です。はじめは戸惑うことも多々ありましたが、日本にはない中国の良いところもたくさんありました。

最初の授業は25~30人くらいいて、皆ほとんど日本語がわからなくて正直言って、うまく教えられる自信はありませんでした。しかし私の発する日本語を丁寧に慎重に聞いてくれる学生を見ると、自信を持って教えなければ失礼だと思うようになりました。日本人と中国人の決定的違いは「積極性」だと思います。特に大勢の前でも習いたての日本語で積極的に話す学生の姿は私も見習うべきところです。

本当に周りの中国人の方々には良くしてもらいました。一緒にショッピングに行ったり、カラオケにも連れていってくれたり、困ったときはいつでも助けてくれて、本当に心強かったです。いつも気を使ってくれた学生達、いつも私にとって最善の方法を考えてくださった先生方、本当にお世話になりました。

これからもずっと日中交流が続き、もっと理解しあえる一番のパートナーになれると信じています。

【 活動内容（場所、時間、内容など） 】:

場所：チョンハイ市（海口市から車で1時間半くらい）の海南外国語学院チョンハイ教学センター

時間：月曜～金曜 19：00～21：00

内容：教材『標準日本語』を使って日本語の授業。日本語をはじめて勉強する生徒さんがほとんどだったので、中国語を使って授業を行いました。

【 行った国(地域) に関して感じたこと 】:

12月ですが、ベトナムに近いので寒くはなく、夏はとても暑いようです。日本と比べて歩くスピードが全体的にゆっくりとしています。ただ車のスピードは速く、運転マナーはいいとは言えないので注意したほうがいいです。

【 滞在中に感じた、現地でのユニークな出来事 】:

私が中国に行くとき毎回あることなのですが、三亜への旅行中、現地の人と間違われて、中国人観光客や（アジア系・欧米系）外国人観光客に道をたずねられました。日本人だと明かすと、大抵「椰子は食べたかい??」と聞かれます。海南島は椰子の木がたくさんあり、特産品になっているので。

【 現地で出会った人々に関して感じたこと 】:

せかせか動いている人を見なかった気がします。みんながのんびりとしていて、授業も日本のように時間通りには始まりませんでした。もともと私はそういう状態に慣れていたので、イライラしたりはしませんでした。遅れることが普通なのでそれを予想して行動することが、現地での生活を楽しむポイントの一つだと思います。

【 今後参加される方々へのアドバイス（準備するものなど） 】:

ほとんどの日用品は現地でも手に入ります。

しかし、日本料理を作りたくても、チョンハイ市では調味料を売っていません。（わさびは何故か売られていますが・・・）そのため、必要最低限の調味料（ダシのもとや味噌など）は持って行ったほうがいいです。また、簡単な日本語の本（小学生が読む程度の）を持って行くと、生徒さんたちも興味がわきやすいと思います。